

ひづめしょうてんがい

日詰商店街

(日詰商店会)

岩手県紫波郡紫波町日詰郡山駅

派生組織を柔軟に設けることで 迅速な行動を可能とする



取組の背景

コロナ禍でも形を変えて さまざまなイベントを継続

紫波町は「オガール」が公民連携によるリノベーション等の成功事例として全国的に有名である。ただ「オガール」に対する追い風は日詰商店街にとっては必ずしも当てはまらない。たとえば、最寄のJR紫波中央駅の改札口は1つしかなく、しかも「オガール」側のみで、日詰商店街側には通路すらなく、車で移動せざるを得ない距離にある。集客につながらない立地という危機感もあり日詰商店街では、「日詰さんさん朝市」や商店街内部外部人材の若手メンバーによる「紫季のマルシェ」の開催や「起業塾」などさまざまな取組を行っている。「紫季のマルシェ」では、ゆっくり走る自転車レー

スを行ったり、歩行者天国にして地元の旬の食材を楽しむ。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響で、外出自粛や接触機会を避けるようになり、顧客の行動パターンが狭い範囲に限定されてしまった。また元々それほど外食や買い物が頻繁でないため、財布のひもは極めて堅い状況である。商店街の常連の顧客からは「コロナ対策として買い物の頻度を下げている」という意見が多く、来街が減少し、商店の維持が危機的な状況である。そのため、まずは商店街の存在意義を示すことが、最優先の課題となる。まちづくり会社であるよんりん社とも連携し「日詰さんさん朝市」は感染症対策を徹底し試行錯誤しながら実施しており、コロナ禍における商店街の存続を模索している。

取組の内容

3つの派生組織によって 高い機動力で施策を実施

日詰商店街では、以前から商店街の活性化のためにさまざまな対策や方法が必要だと常日頃からアイデアを具体化して実行してきた。それらを迅速に対応するために日詰商店会の派生組織として「音めぐみ」と「しわりり」、「日詰みらいプロジェクト」が結成された。「音めぐみ」はコミュニティを形成するための女性団体、「しわりり」は商店街の情報発信応援団体、「日詰みらいプロジェクト」は日詰商店会の青年部である。

これらの各派生組織は機動力の高さを活かし、各種事業を日詰商店会と連携しながら行っている。「しわりり」は情報発信に特化した組織であり、店主等の人物にスポットを当てた情報発信を行っている。一方、「日詰みらいプロジェクト」は「日詰おさんぽカフェ」「商店街ハロウィンウォーク」を開催し、商店街集客のために「日詰おさんぽマップ」を作成した。

また、広範囲の立場の方と直接意見交換やワークショップを行う「商人塾」を立ちあげた。そのテーマは

「コロナに打ち克つ新しい商店街を目指し、そのための販促手法や結束強化のコツを学ぶ」であり、積極的な発言が目立つ。参加者の意見や感想によると、「塾生として参加しているさまざまな立場の住民が一堂に会して、忌憚のない意見交換を行うことがとても新鮮であり、同じように紫波町へ想いを寄せている方々が多くて驚くと同時に仲間がいる安心感を得た」との声が多い。

このように当商店街は、長年の歴史を誇る商店街でありながら若者や女性の活動を受け入れる柔軟性がある点や、目的を有した派生組織を必要に応じて結成しているという点が特徴的である。



商店街ハロウィンウォークの様子

取組の成果

コロナ禍でも工夫をこらし
一定の集客を確保

商店街同士や地域住民は勿論のこと、商工会、町役場、別の街も含めた近隣商店街、報道機関等との広範囲な連携は定性的な効果である。これは数値では表しにくいが地方の商店街にとっては非常に重要である。また、コロナ禍でも実施している「日詰さんさん朝市」では3回で約1,100人集客できたという成果がある。以前の「紫季のマルシェ」の集客数には遠いが商店街

を身近に感じてくれているファンが増加した実感があると商店街メンバーが口を揃える。



日詰さんさん朝市の様子

実施体制

日詰商店会の派生組織という位置づけで「音めぐみ」と「しわりり」と「日詰みらいプロジェクト」が結成されている。

日詰商店会には専任の事務局は不在であり、個々が協力しながら事業等を実施している。その体制を

補完するのが、「音めぐみ」と「しわりり」と「日詰みらいプロジェクト」の存在である。機動力の高さを活かし、書類作成から各種準備まで細かい部分までも全員で連携して行うことで、それらの組織も含めて「日詰商店会」という認識である。Facebookのメッセージ機能を中心に連絡手段として使用しており、素早く情報共有できる体制が整っている。

キーパーソンからのコメント

新しい組織との協働により、賑わい街道を守りゆく

私が現業を二代目として継承した昭和50年代後半から大型店の出店攻勢のなかにもあっても当商店会は出世魚に例えた青年部組織「はまち会」が主体となり各関係団体のご協力のもと、土曜夜市等の賑いイベントを継続開催してきましたが、当組織も成魚「ぶり」になるにつれ自然消滅してしまいました。しかし近年、SNSという力強い方向舵を持った「まぐる」のような

「音めぐみ」、「しわりり」、「日詰みらいプロジェクト」の派生組織の参画により、大きな成果や影響を与えています。連綿と続く歴史と伝統を守りながら新しい発信を継続する商店会として、派生組織・新規参画店舗・各関係組織の皆様と一体となり、時代の流れに合った新たな事業を展開していきたいと思えます。



日詰商店会 会長 鈴木弘幸

商店街の概要

日詰商店街は、紫波町の中央部、日詰（ひづめ）と呼ばれる地区に、古くからまちの中心として栄えてきた。スーパーマーケット、コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、ガソリンスタンド、銀行や郵便局などがあり、住宅地に囲まれた商店街である。古くは9世紀前半に坂上田村麻呂を中心とする都からの軍隊によって攻められ、斯波郡（紫波郡）として治められるようになったのが由来となっている。近年では1998年に「紫波中央駅」が開業し、線路を挟んだ逆側の「オガールプラザ」には町役場や商業施設や宿泊施設も併設され、近隣には住宅も増えている。

所在地 岩手県紫波郡紫波町日詰郡山駅
人口 約3.3万人(岩手県紫波郡紫波町)
電話 019-676-2325
FAX 019-676-2325

URL なし
会員数 58名
店舗数 58店舗(小売業34店、飲食業9店、サービス業15店)

商店街の類型 複合型
主な客層 高齢者、主婦
／60歳代、50歳代